

企業でのBitLockerフルディスク暗号の導入に理想的な一元管理を実現

ウインマジックの SecureDoc Enterprise Server (SES) は、企業のデータセキュリティ環境全体を一元管理可能にするソリューションで、定常的なワークフローにおいて最大限のセキュリティと透過性を確保することができます。SESが備えるBitLockerフルディスク暗号の高度な管理機能により、SecureDoc独自のプリブートネットワーク認証テクノロジーであるPBConnexとの統合が可能となり、BitLockerのWindows OSネイティブな暗号化機能の有効活用と、企業データに対するセキュリティのさらなる強化が実現できます。

企業に理想的なFDEソリューション: SecureDoc + BitLocker

SecureDocでは、ニーズに応じて2つの異なる方法でBitLockerを柔軟に管理することが可能です。

1. SecureDocによるBitLockerの標準的な管理 – BitLockerのプリブート保護機能とセキュリティを活用する標準的な管理ソリューションで、SESの管理コンソールからBitLockerの暗号化、レポート機能およびリカバリを一元管理できます。
2. SecureDocの拡張機能PBConnexによるBitLockerの管理 – SESが備えるBitLockerの暗号化、レポート機能およびリカバリを一元管理する機能に加えて、SecureDoc独自のプリブートネットワーク認証テクノロジーであるPBConnexによって、より柔軟で安全な認証機能を提供する、BitLockerの拡張管理ソリューションです。

SESは、Windows OSネイティブのBitLockerを使用するフルディスク暗号と、SecureDocが備える革新的な機能を組み合わせた最適なセキュリティの導入と管理を実現する、業界で最も優れたソリューションです。Windows環境に最適なBitLockerの導入展開を管理できる堅牢なソリューションを必要としている企業のお客様に、唯一無二の選択肢を提供します。

SecureDocがBitLockerの管理に最適な理由

- IT管理に理想的な機能セットをすべて提供
- 企業内のエンドポイントすべての暗号化を単一のコンソールから一元管理可能
- 複数ユーザによる1つのシステムの共用に対応
- もっとも強力な認証機能を利用可能(オプション)
 - プリブートネットワーク認証機能を活用可能
 - プリブート状態での多要素認証に対応
- ユーザを煩わせることのない「サイレント」な導入展開が可能
- 高機能インストーラにより、BitLocker、SecureDocまたはハードウェアによる暗号化を柔軟に選択可能



SecureDocのBitLocker管理機能とMBAM (Microsoft BitLocker Administration & Monitoring) の比較

SESのBitLocker管理機能		MBAM
プリブート機能 (SecureDocの場合)	プリブート機能 (BitLockerの場合)	BitLocker

プリブート認証機能

ユーザ個別のプリブート認証	✓	✗	✗
ユーザのプリブートネットワーク認証 (AD)	✓	✗	✗
多要素認証のサポート (トークン、スマートカード、生体認証機器)	✓	✗	✗
セキュアなネットワークの自動ロック解除	✓	✗	✓
オフラインのセルフヘルプ・パスワードリカバリ・オプション	✓	✗	✗
チャレンジレスポンスによるパスワードリカバリ	✓	✗	✗
プリブート画面のカスタマイズ	✓	✗	✗

Windowsのセキュリティ機能

シングルサインオン	✓	✗	✗
パスワードの同期	✓	✓	✗
ポリシーによるリムーバブルメディア暗号 (暗号キーを管理可能)	✓	✓	✗
ポリシーによるファイル・フォルダ暗号 (暗号キーを管理可能)	✓	✓	✗
チャレンジレスポンスによるリムーバブルメディア用のパスワードリカバリ	✓	✓	✗
ポートコントロール	✓	✓	✗

監査／レポート機能

クライアントのプリブートログイン監査	✓	✗	✗
BitLockerのリカバリ用キーへのアクセス監査	✓	✓	✗

インストール／展開

BitLocker用ポリシーの一元設定 (GPOの設定が不要)	✓	✓	✗
TPMの自動プロビジョニング	✓	✓	✗
BitLockerがサポートしないOSの保護と管理	✓	✓	✗
自己暗号化ディスクドライブのサポート (TCG OPAL準拠ドライブ)	✓	✓	✗
自己暗号化ディスクドライブのサポート (E-ドライブ)	✓	✓	✓
スタンドアロンでBitLockerを有効にしているマシンの一元管理への移行対応	✓	✓	✗
ユーザが意識する必要のない「サイレント」な導入展開	✓	✓	✗

